

習志野市子どもの満足度調査 目的とねらいについて（テーマ別）（案）

◆居場所について

子どもにとって居場所とは、ありのままの自分をまるごと受け入れてくれる人間関係や空間の働きと、子どもが大人になる準備をするための人間関係や空間の2つの働きをもつ。

自分の居場所を持つことで、子どもは自分を確認し、居場所での人との関わりにより衝突して折り合いをつける経験を重ねながら自分に気づいていく。

子どもにとって居場所は人として成長するために重要であることから、子ども達の状況を分析することにより、居場所づくりについての検討、実施をするための基礎データとする。

◆地域での活動について

子どもは地域との関わりがあることで、その中で成功体験を積むことができ、保護者以外の人や地域の子どもの関係性を築いていく良いきっかけとなっていると考える。一方では、地域の大人からしても地域の子どもの接する数少ない機会となるものであり、これらのことからしても、地域イベントは子どもや親の育ちにとっても大切な機会であると考えられる。

子どもの地域イベントへの参加状況や今後どのようなイベントなら参加してみたいと思うかなどについて調べ、その情報を地域イベントの見直しや活性化に活用を図ることで、地域活動の充実につながると考える。

◆習志野市について

子どもの目線から見える習志野市の良いところや改善すべきところなどを調べ、今後取組むべき施策を検討するための基礎資料とする。

◆メディアとの関わりについて

近年メディアの普及により、携帯やパソコンなどを使う子どもが増えてきているが、子どもたちが携帯やパソコンなどをどのような目的でどの程度使っているのかなど、子どものメディアとの関わりを調べ、今後、市のメディア活用などの検討における基礎資料とする。

◆将来の家庭生活について

将来の家庭生活について、子どもがどのような思いを持っているのか、少子化対策における基礎データとする。

◆健康について

子どもの食生活や睡眠等に関する生活習慣等を調べ、今後、子どもの健やかな成長を支える環境をつくっていくために、市としてどのような施策展開をするべきかを検討するための基礎資料とする。

◆自分自身について

自分自身の存在や生きることを基本的に価値あるものと評価する自尊感情は一人の人として生きていくための根幹となる重要な感情である。この観点から習志野市の子どもたちの自尊感情の有無を把握することが子ども達の現状を理解する入口であり、自尊感情を軸に他の項目をクロス集計することにより、自尊感情を育むための手立てを導き出し、教育や施策に活かしていく。